

【No. 1】 物品販売店、飲食店等の計画に関する次の記述のうち、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 店舗のレジは分かりやすい位置とし、カウンター高さは 50cm 程度とする
2. 物品販売店の主通路は、分かりやすく通りやすいものとし、店内を一周するように計画する
3. レストランの厨房面積は、全体床面積の 1/3 程度とする
4. 飲食店のトイレは、客用と従業員用を分けて計画する

答. 1

【No. 2】 大規模小売店舗立地法に関する次の記述のうち、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 大規模小売店舗立地法は、1974 年に施行された大規模小売店舗法をもとに、届け出る対象や協議する要件を見直した法律である
2. 大規模小売店舗立地法の運営主体は、都道府県と政令指定都市である
3. 大規模小売店舗立地法は、地域の商業者や生活者と大型商業施設の事業者とが、共存していくための法律である
4. 大規模小売店舗立地法の対象となるのは、300 m²以上の商業施設を新設したり、届け出ている事項を変更する場合に適用される法律である

答. 4

【No. 3】 各種法規に関する次の記述のうち、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 飲食店を開業する場合は、専任の食品衛生責任者を定め、法で定める設備機器を設置し、所轄の保健所へ営業許可申請を行う必要がある
2. 消防法では、使用できる素材などに内装制限が設けられているが、店舗面積 300 m²以下の物販店舗はこの対象とならない
3. 2020 年 4 月に施行された改正意匠法では、建物の外装デザインや内装デザインの意匠権を申請登録することが出来るようになった

4. 2021 年 4 月に施行された改正バリアフリー法とは、高齢者や障害者の移動などを円滑に促進するための法律の通称である

答. 2

【No. 4】建築構造に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 構造計画で、建物の耐用年数を適切に検討することは重要な事項である
2. RC造は、コンクリートの流動性を活かし自由な形に一体成型できる
3. S造の外壁部分は、取り付け部の取り合いまで考慮しなくてもよい
4. 補強コンクリートブロック造は、空洞コンクリートブロックを用い、接合部分に鉄筋、モルタルを用いて組み立てた耐震壁で構成される

答. 3

【No. 5】建築耐震設計に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 建築物の耐震性能を確保することは、意匠設計者の配慮は必要なく、構造設計者の義務である
2. 耐震性能の検証法は建築基準法で定められ、高さ、構造形式、規模に応じて分類されている
3. 旧耐震基準に基づいて建てられた建築物は、規模により耐震診断を実施し、適切な耐震補強設計を行う必要がある
4. 建物に大きい被害を与えるねじれは、計画時から十分検討を行うことが重要である

答. 1

【No. 6】給排水衛生設備に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 上水と上水以外の水が混じるクロスコネクションが発生しない計画としなければならない

2. 二重トラップは、無通気の部分ができ、汚物の排水が阻害されるので計画してはならない
3. 飲食店舗で計画するグリーストラップは、清掃頻度などの運用方法を確認して選定しなければならない
4. 配管勾配について、口径 100mm の場合は 1/200 を確保しなければならない

答. 4

【No. 7】 空気調和設備・換気設備に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 単一ダクト方式は、機械室の空調機からダクトにより冷風・温風を給気及び還気する
2. コージュネレーションシステムは、エネルギー利用の総合効率の向上を目的として導入される
3. 第二種換気方式はトイレ、浴室などで採用される
4. 一人当たりの必要換気量は 20～35 m³/人・h とされているが、業種・業態や状況に応じて適切な換気量を考慮する必要がある

答. 3

【No. 8】 防災設備に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. スプリンクラー設備は、天井面に設置された弁から、出火時水が霧状に噴射し消火する装置である
2. 泡消火設備は、泡原液と水とを混合した泡により、空気の供給を絶って消火する方法である
3. 自動火災報知設備は、一定温度になると作動する定温式と、空気管など温度が急上昇する差動式がある
4. ガス漏れ火災警報設備は、延べ 1000 m²以上の地下街には必要がない

【No.9】各種設備に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. エレベーターの設置台数は、おおむね 5000 m²に一台前後が多い
2. エスカレーターの輸送力は 400～500 人/時・台である
3. POS システムとは、販売時点情報管理のことである
4. 排煙設備には、自然排煙設備と機械排煙設備がある

【No.10】色彩計画に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 色彩は照明によって大きく左右されるため、計画時から入念に考慮する
2. 地色とは内部空間の背景色となる色彩で、一般に壁、天井などがそれにあたる
3. 物販店やショールームにおける地色と商品の色の関係性については、考慮する必要がない
4. 外装や外構の色彩計画では、近年景観緑三法によるガイドラインを採用する自治体が増えている

【No.11】照明に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. ダウンライト照明は、床面に埋め込むタイプの照明で、商業施設では多く使用されている
2. 演色性は、物体色の見え方に変化を起こす光源の性質である
3. 色温度の低い照明光源は、暖かみを感じさせる

4. 光束法による平均照度の計算では、天井面や壁面等の反射率を考慮する必要がある

答. 1

【No.12】 厨房計画に関する次の記述のうち、**最も不適当なものはどれか。**

1. 厨房器具の多くは寸法で作られており、奥行 600mm、750mm、900mm、幅 600mm、900mm、1,200mm、1,500mm のものが多い
2. 高級和食店の調理場は、大きく「刺し場」と「焼き場」に分かれ、それぞれの専門の職人が一貫して調理をするスタイルが多い
3. テイクアウト需要の高い店舗は、厨房の面積割合は低くなる
4. オープンキッチンにすることにより、厨房独特の躍動感の演出をねらうことができる

答. 3

【No.13】 環境計画や環境制度に関する次の記述のうち、**最も不適当なものはどれか。**

1. 環境制度で規定するグリーンビルディングとは、建築物の内外に樹木や植栽を効果的に配置する制度のことである
2. 脱炭素社会とは、二酸化炭素の排出量を実質ゼロにしようとする社会活動のことである
3. 建築環境総合性能評価システム（CASBEE）とは、商業施設や業務施設などの建築物が備えている環境性能を評価し、格付けするシステムのことである
4. カーボンニュートラルとは、地球上で生み出される二酸化炭素の排出量と、植物の光合成などによって吸収される量を等しくする概念のことである

答. 1

【No.14】 省エネルギーに関する次の記述のうち、**最も不適当なものはどれか。**

1. 日本の CO₂排出量の 3 分の 1 は建築関連である
2. 500 m²の建築物については行政庁への届け出は不要である
3. 商業施設の省エネルギー手法は非常に大事である
4. 関連用語として、環境共生、CASBEE、ロハスなどがある

答. 2

【No.15】 コスト計画に関する次の記述のうち、**最も不適当なものはどれか。**

1. 商業施設において、テナント決定時に工事区分が未決定の場合はコスト算出に影響がでる
2. 防火区画、排煙区画は安全に関する最も重要な要素で、かつコストに大きく影響する
3. トップライト等の外光を取り入れる手法は、環境演出のためにも積極的に採用すべき事項である
4. できるだけ各階とも同じ階高にすることで躯体の生産コストを抑えることができる

答. 3